

講演テーマ

(檀原市9条の会・結成14周年記念講演会)

日本の国是と アジアと世界の平和

戦争と平和を考える檀原市民のつどい



2019年

10月6日(日)

午後1時30分～3時30分 (1時開場)

檀原文化会館

(小ホール)

講師＝丹羽宇一郎さん

入場無料

プロフィール

- ① 1939年 愛知県生まれ。
- ② 1962年3月名古屋大学法学部卒業
- ③ 同年4月 伊藤忠商事入社、主に食料部門に携わる
- ④ 1998年4月 同社社長、2004年 会長に就任
- ⑤ 2006年10月～2008年10月 経済財政諮問会議民間議員
- ⑥ 2007年4月～2010年3月 地方分権改革推進委員会委員長
- ⑦ 2010年6月～2012年12月 中華人民共和国駐筋特命全権大使
- ⑧ (現在) 一般社団法人 グローバルビジネス学会会長
公益社団法人 日中友好協会会長、福井県立大学客員教授

主催 檀原市9条の会 (代表世話人 弁護士・内橋裕和、茨城大学名誉教授・島岡 将
医師・水谷和宏)

後援 奈良新聞本社・朝日新聞奈良総局・毎日新聞奈良支局・読売新聞奈良支局

連絡先・檀原市9条の会 (TEL・FAX 0744-24-1204 大槻烈)

『あたらしい憲法のはなし』

みなさんの中には、こんどの戦争に、おとうさんやにいさんを送りだされた人も多いでしょう。ごぶじにおかえりになったのでしょうか。それともとうとうおかえりにならなかったのでしょうか。また、くうしゅうで、家やうちの人を、なくされた人も多いでしょう。いまやつと戦争はおわりました。二度とこんなおそろしい、かなしい思いをしたくないと思いませんか。こんな戦争をして、日本の国はどんな利益があったのでしょうか。何もありません。ただ、おそろしい、かなしいことが、たくさんおこっただけではありませんか。戦争は人間をほろぼすことです。世の中のよいものをこわすことです。だから、こんどの戦争をしかけた国には、大きな責任があるといわなければなりません。このまえの世界戦争のあとでも、もう戦争は二度とやるまいと、多くの国々ではいろいろ考えましたが、またこんな大戦をおこしてしまったのは、まことに残念なことではありませんか。

そこでこんどの憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。

これからさき日本には陸軍も海軍も空軍もないのです。これを戦力の放棄といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。

日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことくらい強いものはありません。

もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをとおそうとしないということをきめたのです。おだやかにそうだんをして、きまりをつけようというのです。なぜならば、いくさをしかけることは、けっきょく、じぶんの国をはろぼすようなはめになるからです。また、戦争とまでゆかずとも、国の力で、相手をおどすようなことは、いっさいしないことにきめたのです。

これを戦争の放棄というのです。そうしてよその国となかよくして、世界中の国が、よい友だちになってくれるようにすれば、日本の国は、さかえてゆけるのです。

1947年8月文部省発行

全国中学校1年

社会科教科書副読本

「あたらしい憲法のはなし」17頁

「六 戦争の放棄」より